

(別紙5)

整理番号 2022P-037  
補助事業名 2022年度 自転車安全利用等、人にやさしい健康で安全な社会づくりの  
推進、交通マナーや正しい乗り方などを啓発する事業 補助事業  
補助事業者名 (一財)日本サイクルスポーツセンター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

当該プログラムの結果検証を、インターネット媒体や様々な効率的媒体により「健康に関する自転車の利活用」に関する情報として、広く一般世間へと発信し、公衆衛生上で利用される広い範囲へのアプローチ手法の一つである「ポピュレーションアプローチ」の概念を活用して、国民全体の「健康寿命の延伸」「QOL（生活の質）向上」へとつなげ、WHOが提唱する「健康」の定義「単に病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」への一助とする。

(2) 実施内容

静岡県、伊豆市、伊豆の国市、伊東市など、地元行政を中心とした組織「静岡県スポーツコミッション」と協働して、参加者を募集し、室内型自転車、ワットバイクを利用したテスト及びプログラムを実施した。テストはモニタリング期間の前後で、推定最大酸素摂取量（VO2Max）を測定、最初のテストの結果により、ここにカスタマイズされたプログラムをおおよそ2か月半かけて行い、最終セッションにおいて、改めて同テストによりその数値の推移を調べた。途中で、ロードバイクやマウンテンバイクなど、実際のスポーツバイクの試乗体験も実施して、自転車の有益性、楽しさを十分にアピールして啓発を図った。

URL : <https://www.csc.or.jp/subsidized-projects/>

2 予想される事業実施効果

本事業は、ワットバイクで、テストやプログラムを熟して、健康に関する指標である推定VO2Maxの向上はもとより、併せて、その事業を東京オリンピック・パラリンピックの競技会場である伊豆ベロドロームや伊豆MTBコースで行ったことに大きな意義がある。スポーツ庁が推進するオリパラのレガシーづくりにもつながる事業であったと思慮される。また、競技別ナショナルトレーニングセンターである本センターの優位性を利用して、日本代表チームがトレーニングしている同じ場所で、エクササイズができるという、非日常的な環境づくりも、参加者の意識高揚に一役買ったと思われる。また、期間中は、ロードバイクやマウンテンバイク、トラックバイクなどのスポーツバイクの体験試乗も、日本スポーツ協会公認自転車競技コーチ資格者により、そ

(別紙5)

れぞれ行われて、実際に自転車に乗る楽しさや爽快感を参加者に味わっていただくことで、普及につなげることができた。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

該当なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般財団法人日本サイクルスポーツセンター

(イッパンザイダンホウジンニッポンサイクルスポーツセンター)

住 所： 〒410-2402

静岡県伊豆市大野1826番地

代 表 者： 会長 平柳 豊 (カイチョウ ヒラヤナギ ユタカ)

担 当 部 署： 総務部 経理課 (ソウムブ ケイリカ)

担 当 者 名： 経理担当課長 土屋 博良

(ケイリタントウカチョウ ツチヤ ヒロヨシ)

電 話 番 号： 0558-79-0006

F A X： 0558-79-0908

E - m a i l： [csczaimu@csc.or.jp](mailto:csczaimu@csc.or.jp)

U R L： <https://www.csc.or.jp>